

1) インフルエンザウイルスのゲノムパッケージング機構の解析

東京大学医科学研究所 ウイルス感染分野

○野田岳志、河岡義裕

生物が種を存続させるためには、遺伝情報を正確に子孫に伝えなければならない。これはヒトでもウイルスでも同じである。

インフルエンザウイルスのゲノム RNA は 8 本の分節に分かれている。子孫ウイルスが感染性を持つ（次のターゲット細胞で増殖できるようになる）ためには、8 種類全てのゲノム分節を少なくとも 1 本ずつ取り込まなくてはならない。8 種類のゲノム分節を全て揃えるためには様々な戦略が考えられるが、インフルエンザウイルスのゲノム分節が適切に子孫ウイルスに受け継がれるメカニズムについては、半世紀以上もの間、ほとんど明らかにされていなかった。我々は、リバーシジェネティクスや電子顕微鏡法を用いて、その解明に挑んでいる。本講演では、インフルエンザウイルスのゲノム取り込み機構について議論する。